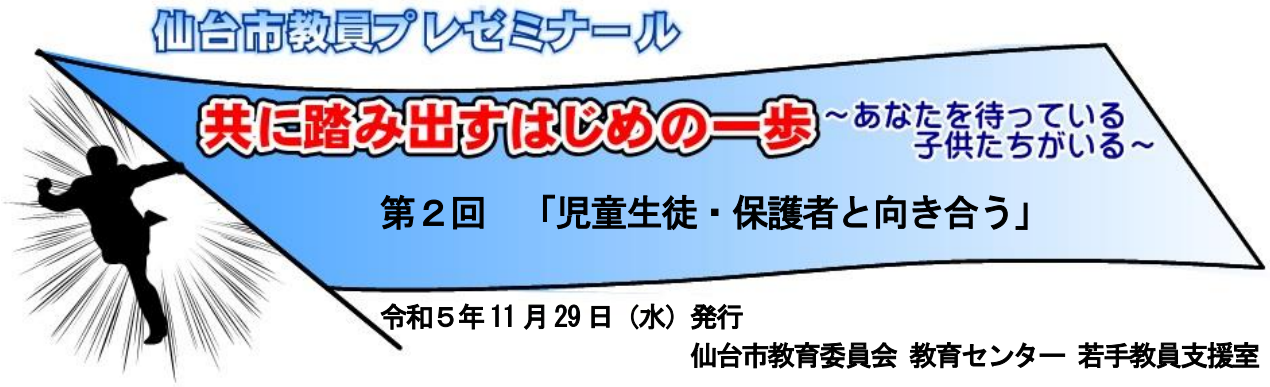

令和５年 11 月 29 日（水）発行
仙台市教育委員会 教育センター 若手教員支援室

教師として児童生徒との向き合い方

１１月２５日に第２回プレゼミナールを開催しました。今回の受講者は，６２名となりました。学校における児童生徒との向き合い方や関わり方について，指導主事から具体的な事例を通しながら学ぶ様子が見られました。さらに配慮を要する児童生徒との向き合い方や保護者との関わり方について理解を深めました。なお，現在プレゼミナールの申し込み総数は１０７名となっております。

１「児童生徒と向き合う」

教育相談課の指導主事より，いじめの定義について話がありました。また，ロールプレイを幾度も取り入れながら，学校現場での具体的な事例に関して自分たちが実際に児童や生徒にどんな声掛けをするのかをグループで考え，児童生徒との信頼関係を構築するために大切なことを学びました。

児童生徒を理解し向き合うための大切な視点としては，相手に寄り添う気持ちを持つことや，優しさの意味についての話もありました。また教職の魅力ややりがいについて，「学校は人との関わりの連続である」「子どもや保護者はもちろん，地域の方など関わる人たちへありがとうという感謝の気持ちを忘れないことが大切である」との話がありました。また同僚や自分自身への感謝も忘れないように働くことも大事なことであるとの話を頷きながら聞く受講者も見られました。

２「配慮を要する児童生徒と向き合う」

学級や学年での配慮を要する児童との関わり方について，特別支援教育課の指導主事より話がありました。最初に配慮を要する児童生徒の心理体験を実際に行い発達障害の理解を深めました。さらに，実際の児童生徒との関わり方については，①行きつく先（ゴール）を明確にする，②肯定語を使う，③刺激せずに，自分で静める経験をさせる，④子供の「土俵」に乗る，⑤ルールを確立するといったことなどについて，学校での具体の事例を用いた話を聞きながら理解を深めることができました。

３「保護者と向き合う」

保護者との向き合い方について，小，中学校及び高等学校の教頭先生から，それぞれ話をいただきました。受講者は校種別に分かれてより具体的な話や対応について学びました。

小学校ブースでは保護者からの連絡帳への返事の書き方で注意する点や電話での対応の仕方についてロールプレイを通して学びました。中学校ブースでは，保護者との関係構築について，学級だよりや学級懇談会，そして日常の電話連絡などの具体的な内容を通して，講師の先生の経験談なども交えながら学びを深めました。

《受講者の声》

〇子供の話を聞く，そして説諭するというロールプレイングでは子どもに反省を促すことの難しさを感じた。正解はないということではあったが，みんなの意見やロールプレイを見て，子供たちの頑張りを認めたり，ほめることを大事にはしつつ，子供たちに考えさせて，子供たちの言葉でいろいろ語らせることを大事にしていくことが重要なのだと考えた。特別支援の講座では「見方を変えて味方になる」という言葉がとても印象に残った。一番困っているのは子ども自身であるということ，努力していないわけではないということを頭に置き，子供の立場に立って考えるということを意識して子供と向き合っていきたいなと感じた。保護者対応の講座では実際のロールプレイや連絡帳の返信を考える作業を通して，難しさを感じた。しかし，逆に信頼関係を築くことができるチャンスととらえて，「チームで動く」ということを念頭に置き，動いていきたいと思った。教員として働くうえでやはりどの項目においても子供が主役，子供を第一に考えることが重要であることを今日の２時間30分を通して改めて感じることができた。また，周りの人たちとコミュニケーションをとりながら講座が進んでいくのでとても楽しく，交流の場にもなったので４月からが楽しみになりましたし，これから一緒に頑張っていく人たちと顔を合わせることができてとても良かったです。

〇今回のゼミナールでは，生徒理解や保護者理解についてロールプレイを行いながら，学習できた経験がとてもよかったと感じた。実際に自分が体感し，教師役，生徒役の目線に立って，わからないなりにもやってみることで，どういった気持になるのか，どうしてほしいのかという気持ちの部分を深く感じることができた。今日一日の中で，様々なケースを想定して，ロールプレイを行ったが，実際に教育現場に出たら，自分が想像できないようなこともたくさんあるはずである。そのため，自分一人で考えてみてもわからない場合は，様々な人の意見を聞いて，対応を検討することが重要であると感じた。

〇教育実習では，児童と向き合う機会はあっても，保護者と向き合う機会はなかったため，保護者と向き合うということに不安があった。今日，保護者と向き合うときには傾聴や共感などが大切であるということを学んだ。保護者対応には，まだまだ不安が残るが，１人で抱え込んではいけないということが分かった。管理職に報告して，学校でチームとして解決していくことを覚えておきたい。そして，子どもにとっても，保護者にとっても，学校が信頼される場所であるように努めていく必要があると感じた。

〇私は，特別支援の免許は取得しないので，今回特別な支援を必要としている児童がクラスに2,3人はいるということを知って，この講座を通して様々な児童の気持ちに気づくことができて良かった。ロールプレイングを通して，実際にどのように対応すれば良いのかを考えるきっかけにもなったし，このような経験を積むことの重要性も知ることができた。現場に出たときには，最初はなかなか上手くはいかないかもしれないが，まずは児童，そして保護者の目線に立って一緒に考えることを大切にしていきたいと思った。そして，何かあったら管理職の先生に相談して，自分１人で抱え込まないようにしようと思った。

〇児童生徒との関わり方や保護者の方々との関わり方をリアルに感じることができた時間となった。教員だけではなく，児童生徒も保護者も学校に同じ性格の人や特徴のある人は一人もいないため，しっかり理解を図りながら教員が一人で抱え込むのではなく，他教員との情報共有や連携をしっかり行い，対応する必要があると改めて感じた。私は，養護教諭を志望しているため，担任視点での学級経営や保護者対応を考える機会がなく，今回のプレゼミナールに参加して，学級担任目線での児童生徒の様子や対応，保護者との関わり方を学ぶことができ，保健室での児童生徒対応や保護者との関わり方にも活かせると感じた。学級担任が何に悩んでいるのか，何か保健室でもできることがないかといったように，多面的に物事を見るきっかけの一つになったと感じる。

プレゼミナールは，３月まであと６回あります。<u>いつでも参加申込はできます。関心を持たれた方はお申し込みください。</u>第３回「魅力ある学級づくりのために」は，１２月９日（土）開催です。